ちば山の山スキー・ＢＣを振り返って

菊池典雄　（Ｓ24 年生まれ：2000 年入会）

小生の入会は 50 才、2000 年の 2 月、5 年ほど前より山スキーを始め、ＴＭ（テレマーク）に転向して 2～3 年、無雪期の山登りも深田久弥の百名山を 85 座ほど終了していた。ほとんどが単独山行、社交性のない小生にとっては、山の会に所属するなど考えてもいなかったが、会のモットーでもある「安全で安く楽しい山行」を共有することを実践したくて「清水の舞台から飛び降りる」思いで事務所に行ってみた。当時の会長、渡辺（浩）さんが来ており入会手続き、草津白根山・渋峠・芳が平のハードな日帰りツアーを白井さん・横山さん・渡辺（俊）さんと実施したのが、ちば山での山スキーデビューでした。わが会の山スキーの歴史については白井さんや、当初山スキーでしばしばご一緒しお世話になった小倉夫妻からある程度の話を伺いました。

過去の「峠」の山スキーに関する記載(総ページ数と山スキー関連ページ数)は、**①1996 年（14 号 30 周年）：3/78、②1999 年(15 号)：3/62、③2007 年（16 号 40 周年）：22/110、④2012 年（17 号 45 周年）：18/120** となっており、山スキー愛好家の増加に比例して投稿数も多くなった。

① **小倉時義**さん：**スキー山行(5 月の朝日岳)**；何とでっかい遊びを知ってしまったことだろう。未知の世界、日常の世界とはまるで違う別の世界へたったの何時間かで滑り込み、全神経、スタミナを使い込み、無事に下山した時の何とも言えない思い。そんな初めての山スキー山行でした。・・・・

② **白井浩司**さん；**こうして、こうなった**；たまたま立ち寄った新大久保のＩスポーツで私は出あってしまった“ＡＳＯＲＯテレマークブーツ旧モデル半額！”・・・雪の降る中ブーツを履き、「よし、行くか！！」と気合を入れていると、怪しい集団に囲まれてしまった、・・彼らも千葉から来た山スキーヤー達だった。若いテレマーカーが一人混ざっていた。…千葉県一のテレマーカーだそうだ。…紅一点のＨ木さん、テレマークのＳ高さん・・・

私が入会したころのＨＰ担当は渡辺(俊)さん、他のジャンルに先んじて**「山スキーの部屋」**というコーナーを設け、彼のご尽力により 2002 年より山スキー山行報告を掲載している。ＨＰ担当が**住田さん**にバトンタッチされてからは、他のジャンルでも山行報告の一覧を掲載しており、ＨＰの充実は会の発展に寄与するところが大きい。

山スキーの部屋は**山スキー・ＢＣの部屋**と改名され、ファットスキーの登場やビンディングの軽量化などにより、残雪期の山岳山スキーのみならず、新雪・深雪滑走の魅力が益々加速化され、厳冬期のＢＣにのめり込む傾向にある。私は、定年前後の 4 年間、野尻湖に近い長野県の信濃町に在住し、新雪・深雪ＢＣの多くの経験を積んだ。しかし厳冬期が対象となるため、**各種のトラブル：雪崩・シールトラブル・ビンディングトラブルなどに遭遇することもあり、益々入念な情報入手・事前準備が重要である。**

山スキー・ＢＣの部屋には過去の山行報告が収納してあり、山スキーのノウハウを学習するのに役立つ大きな財産である。**講習会に使用した資料**や 11 回に及ぶ**ＢＣネット講習会**を収録してあり、大いに活用していただきたい。

例年、年末に主にゲレンデで実施される実地講習会では、滑走技術のアドバイスを積極的に行い、山行ではその都度、山スキーのノウハウを伝授すべく努力をしている。**どのジャンルでも同様に、退会・メンバーの高齢化などにより、苦労しているのが現状である。**

「継続は力」なりは小生の座右の銘であるが、年齢を重ね、体力が衰えると「継続と努力は人を裏切らない」を益々実感している。トレーニングを続け、若いメンバーがいつまでもお付き合いしてくれ、リーダーの担い手となれるよう努力をするつもりである。パウダー中毒になっていたきらいがあるがその言葉を返上し、いろいろなスタイルの山スキー・

ＢＣをいつまでも楽しみたい。

昨年のＧＷに利尻山山スキーを実現できた。先週は 68 才の吉川さんと私は、猫岳の素晴らしいロングツアーを若者と楽しむことができた。そして先日は鍋倉山のパウダーランを今年も堪能できた。

今年度のちば山メンバーで過去に私と山スキー・ＢＣ・ネイチャースキーを同行下さった方々は **42 名**である。この場を借り、皆さんに感謝いたします。

掛け値なしで山スキー・ＢＣは楽しい！！ 最近ご一緒してない方々も、是非またきましょう。

ちば山の山スキー

「二〇〇五～二〇〇六シーズンのツアーを中心に」

菊池　典雄

立山詣で始まる山スキー

二〇〇五年山スキーシーズンは例年恒例の立山で始まった。田村CLを中心に雄山山崎カールのパウダーを楽しんだ面々は、素晴らしい青空の下、満面に笑みを湛えていた。小生がちば山に入会した二〇〇一年から、私の提案により始まった十一月の立山詣は少雪の二〇〇三年は中止したが、四回目であり毎年十名以上の参加で盛況である。初年度には、小倉時義CLのもと、超重荷を担いで雷鳥平でのテント泊、八十cm程度の積雪であったが、三日間の晴天の下、テント村は二〇〇以上と思われる色とりどりのテントで銀座と化し、山スキーフリークの歓喜に溢れていたが、雪中簡易トイレの運命はいかにと、例年語り草となっていた。剣の雄姿を前に剣御前のパウダーを味わったちば山の面々はその感動が忘れられず、翌年から毎年立山詣に心を躍らせている。

二〇〇二年からは室堂山荘をベースに一泊二日である。二〇〇二年にはシーズン始めから忘れもしない大雪で、すでに四メートルほどあり、CLとしてはこの時期の多雪に、雪崩が心配であったが、立山に入ってみると素晴らしい山スキーコンデション、浄土山、国見岳の北斜面で、極上深雪パウダーを堪能できた。この年からは、広木愛子さんの参加もあり、またあの白石美穂ちゃんも昔採った杵柄とばかり、浄土山からの展望を楽しみながら立山山スキーの初体験を楽しんでいた。二〇〇四年は何とか七十cmほどでありパウダー堪能とまではいかなかったが、横山さん・鶴田さん・長池さん・石橋さん・加藤(洋)さんなどの初参加もあり、ビーコン練習などを盛り込み、雄山をバックにした記念撮影が忘れられない。

さて、二〇〇五年秋、私は職場の関係で体調を極めて崩してしまい、立山どころではない状態であった。一時は、これまでの楽しい立山山スキーどころか、山そのものがもう出来なくなるのではないかと懸念したが、なんとか回復、徐々に体調を整え、十二月初めには田村君と神楽の深雪に飛び込んでいた。今年こそ私も山崎カールと雄山から西に下る素晴らしい沢ルートを滑降すべく気力を整えている。

二〇〇五～二〇〇六年シーズン

テレマークのあれこれと益々盛んな「ちば山の山スキー」

二〇〇五年十一月下旬より例年より一ヶ月ほど早く寒波が本土を襲い始めた。十二月、二〇〇六年に入るとますます寒波が続き、上信越・北アルプスの山々は豪雪に見舞われ、雪崩による道路閉鎖・人身事故が相次ぐシーズンであった。

山スキー技術の向上のみならず、雪の状況把握・雪崩対策など今シーズンほど、身をもって重要であると感じた年はなかった。田村君が神楽で雪崩対策の実地講習を行ってくださり大変役立ったと思われます。また一晩の降雪量が極めて多い上越では、危険性・交通事情の悪化が予想されるなど、臨機応変に信越方面への変更など行った。天候と雪質を考慮した、雪崩対策・事故対策をツアー計画するたびに、直前まで情報収集・分析を行うことが成功の鍵である。

山スキー・ネイチャースキーには、それぞれ目的と好みにより、使用するギアを選択できる。それぞれの分野のギアは益々改良され優良なものが市場にでており、こだわって練習すればそれぞれ楽しめる時代である。アルペン使用は、ゲレンデスキーの経験がかなりあれば、ゲレンデでの山スキー技術の練習と実践を平行していけばそれほど苦労せず楽しめる。橋本さんと辻本さんがアルペン仕様で山スキー仲間にカンバック・入会しました。団塊の同世代とし益々面白くなってきました。

テレマークは北欧で始まり、コロラドで盛んになったが、日本でも革靴・細板で始まった当初は急峻な山岳や深雪には向いてなかった。いまでもこの細板テレマークはその軽快さ・抜群の機動性から、廃れるものでなく味わい深いものとして、愛好家は多い。

私が入会したきっかけは、「ちば山に白井あり」との評判を聞き、奥さん(当時　超　永愛さん)とも仕事での知り合いであったためHPでの彼女の活躍を目の当たりにしたことです。三月の初ツアーで草津白根から芳ヶ平ツアー(白井・横山・渡辺俊・菊池)で、体力のある白井君は細板・革靴でグングン推進力を利かせて先行・ラッセルしてくれる姿をみました。私はテレマークを始めた二年ほど前から細板を使用していたが、深雪指向によりややワイドになり始めていた。そのころ白井君がHPのなかでテレマークの項目を設けていたが、私をして「ちば山にもワイドスキー時代がやってきた」と称していた。確かにワイド・パウダー指向は益々強くなり、テレマークのみならず、アルペンも同様の傾向が進み、テレマーク靴も、プラブーツが主流となっている。

細板・革靴テレマークは北八ヶ岳・奥日光などの乾燥パウダー・丘陵地帯・林間には極めて向いておりその魅力はいつまでも続くでしょう。二〇〇三年三月、北八ヶ岳のネイチャースキーでは、初心者を始め多数が参加しドタバタ楽しみました。二〇〇五年二月は鶴田さんと奥日光：刈込・切込湖、山王峠・光徳牧場・戦場ヶ原・湯の滝とテレマーク・ステップソールで駆け巡りハードで楽しいツアーを行いました。二〇〇六年一月二日には渡辺俊ちゃん、白井夫妻・愛犬等と光徳牧場～山王峠でステップソール細板テレマークを楽しみ、今後も一シーズン二回程度は細板テレツアーを計画したいと思っています。ちば山山スキーもテレマーカーが徐々に増えていま

す。このシーズンにはついにエキストリーマーの田村君まで超フアット使用のポケロケで華々しくテレデビュー、初日にしてテレマーク姿勢まあまあ、たちまち軽いパウダーはすいすい。桑名君もテレギア購入で秘トレ開始、俊ちゃんは三シーズン目にして、益々充実で、華麗なターンのカメラ映りは抜群。カットビテレマーカー元祖今西君を含めた三十路を向かえたばかりの三・四羽ガラスに負けてはいられません。舟山さん・石橋さん・広木愛子さんなどこれからも林間パウダーを楽しみましょう。長池さんは一時、腰を痛め休養したものの、抜群の心肺機能・体力で念願の富士山剣ヶ峰お鉢・大滑降に気を良くして、来シーズンも益々期待。鶴田さんは昨シーズンの芝倉沢に続いて、雪倉・金山沢と夢が叶えられました。これからも体調を整えてやりましょう。岡田さんは昨シーズン山スキー初体験以来、その魅力に取り付かれ、体力も抜群、スキー技術はお手の物で山スキーのノウハウを習得すれば更に鬼に金棒。入会以来お世話になっています小倉時義さんとは今年は機会がありませんでしたが、夫妻とはこれからも是非ツアーでご一緒したいものです。加藤洋子さんは針ノ木雪渓・金山沢など残雪期のハードなルートでも、ガッツなボーゲンに磨きがかかっていましたが、悪雪に膝を痛め今シーズンは残念でした。体調を整えてカンバックを期待しています。酒付き夜行での単独ツアーを好む原さんも、草津、雪倉・金山沢、乗鞍に参加、山の会ツアーを堪能していました。

東方さんのスキー技術は一級品、昨シーズンから始めた山スキーにも徐々に慣れ面白くなってきており、芳ヶ平のパウダーを楽しめました。

従来は主に有名なクラシックルートのツアーが主体でありましたが、深雪パウダー狙いの未経験ルート、田村君のオートルート、谷川マチガ沢・四の沢、笠が岳など、体力と卓越したスキー技術とさらに適切な雪の状況把握に対する知識と判断力が要求される山行も行われるようになっています。滑る楽しさだけを追求しているだけではなく、さらに講習・訓練などでちば山全体のレベルアップを図りたいものです。

2005～2006年シーズン・山スキー山行一覧

日時・天候	山域・山名など	参加者
2005年　11月19・20日 曇り・晴れ	富山県・立山：山崎カールなど	CL田村、渡辺（俊）、長池、石橋、岡田、桑名、今西
12月11日 晴れ新雪４０ｃｍ	新潟県・神楽ヶ峰；	CL菊池、田村(テレマークデビュー)
12月18日　晴れ	新潟県・神楽ヶ峰（雪崩講習）	CL田村、長池、小倉（笑）
12月25日 晴れ：新雪５０ｃｍ以上	新潟県・神楽ヶ峰；中尾根	CL菊池、田村、長池、舟山、小倉夫妻、鶴田
2006年　　1月2日 曇りのち晴れ	栃木県・日光；光徳牧場－山王峠（細板・テレマーク）	CL菊池、渡辺（俊）、白井夫妻
1月9日 晴れ；気温最低－１５℃	長野県・峰ノ原－根子岳北西斜面）	CL菊池、田村、渡辺（俊）長池、舟山
１月21・22日 晴れ：気温最低－１７℃	群馬県・草津白根山－池ノ塔－芳ヶ平－草津スキー場	CL渡辺（俊）菊池、岡田、鶴田、原、東方
1月28・29日 晴れ：29日気温上がり悪雪	新潟県・神楽ヶ峰、群馬県・前武尊（定例山行）	CL田村、舟山、桑名、加藤（洋）、鶴田、石橋、長池、小倉夫妻、倉本
2月5日 :晴れ：気温最低－１６℃	長野県・湯の丸山－旧鹿沢スキー場	CL菊池、渡辺（俊）、長池、岡田、舟山（デレンデのみ）
3月4・５日　晴れ：	新潟県・妙高；三田原山、前山	CL菊池、渡辺（俊）、岡田、小倉（笑）
3月12日	群馬県・西山	CL田村　単独
3月12日	群馬県・草津；池ノ塔・芳ヶ平	CL小倉（時）、小倉（笑）、舟山、東方
3月21日 曇り－雪－晴れ：新雪３０ｃｍ	福島県・西吾妻；二十日平 春の湿雪ブナ林はまあまあ	CL菊池、渡辺（俊）、岡田、舟山、石橋、辻本（愛）
3月21日	群馬県・笠ヶ岳	CL田村　単独
3月21日 晴れ：条件よい	群馬県、新潟県・谷川；茂倉谷－土樽	CL　田村、菊池、岡田
4月2日	群馬県・谷川；マチガ沢/四ノ沢	CL田村　単独
4月8日 各地の北斜面で雪崩事故多発	新潟県・神楽ヶ峰；中尾根 中尾根北斜面で先行者が雪崩に巻き込まれた。雁ヶ峰は悪天で中止、	CL菊池、岡田、石橋、長池、辻本
4月15日 晴れ	群馬県・至仏山 戸倉から津奈木までMB利用	CL田村、菊池
4月22日 晴れ：林間、春の腐れ雪で最悪	長野県・御岳 風でゴンドラ遅れ、下から登行	CL菊池、長池、岡田、桑名
5月1－6日	北アルプスオートルート；室堂－上高地	CL田村　単独
5月3－5日 晴れ：条件よい	長野県・新潟県：蓮華温泉－雪倉岳、小蓮華金山沢	CL菊池、渡辺（俊）長池、岡田、舟山、鶴田、原、橋本
5月21日 晴れ－下り途中ガス	静岡県・富士山剣ヶ峰 雪渓アイゼン担ぎ上げで省エネ	CL菊池、渡辺（俊）、長池、岡田
6月3日 晴れ：条件よい	長野県・乗鞍岳 位ヶ原下部は悪雪、藪漕ぎ苦労	CL菊池、渡辺（俊）、岡田、長池、船山、原、石橋、小倉(笑)、

日本オートルート(室堂～上高地) 山スキー縦走

田村雄児

「日本オートルート」とはヨーロッパアルプスにおける山岳スキーのクラシックコース最高峰「オートルート(シャモニー～ツェルマット、一三日間、一二〇㎞)」に由来する、日本随一の山スキーコースである。通常、室堂から入山し、薬師、双六、槍ヶ岳を越え、上高地まで六〇㎞をシール、アイゼンで登り、カールを滑るこのコースは山岳スキーツアーに必要な技術、経験、体力、判断力が試されるビッグルートであり、山スキーヤーの多くがあこがれるビッグルートである。

自分も大学二年の九四年、バイトで貯めたお金で山スキーセットを購入し、同時に買った入門書「スキーツアー入門とガイド 北田啓郎編、山と渓谷社」の最終ページに書かれていたこのコースの記録を読み、当時はそのスケールの大きさにただただ圧倒されるばかりであった。

大学時代はアパートから一時間でアプローチできる吾妻連峰をベースとして年に五～六回の山スキーを楽しんでいたが、技術的にはたいした進歩もなく時を過ごしていた。会社に入って大阪勤務となってしまった二年間はGWに鳥海・月山を滑るのみであり、山スキーから半分足を洗いかけていた。ところが、千葉勤務となって多数のパウダーエリアが選択可能になるや、生活パターンは一転し、土日はひたすら雪の上の人になってしまったのである。そして、このまま単独行を続けていてはさすがに「ヤバイ」と思い、二〇〇五年二月にちば山の会に入会した訳である。

菊池先生をはじめとした多くの人々と行動をともにし、また、県連の救助隊行事なども通じて飛躍的に山岳技術を伸ばすことができ、そのおかげで「マチガ沢 四ノ沢滑降」等の多少難度の高いルートや、「日本山岳スキー選手権大会」完走など、オートルートに向かっての下地を作ることが出来た。

そして、二〇〇六年GW、天気にも恵まれた結果、オートルート初挑戦で全踏破できました。

クラシックルートの最高峰だけあって、素晴らしいコースです。しかし、雪崩・ルート・天候・体力等々、非常にシビアであることも確かでした。安易な気持ちでは入ってほしくないルートです。

「日時」二〇〇六年五月一日(月)～六日(土)
「メンバー」田村(単独)
「コース」
千葉～扇沢P～室堂～五色ヶ原山荘 泊(一日、終日ガス)
～越中沢岳～スゴ乗越 泊(二日、終日ガス)
～薬師岳～太郎平 泊(三日、快晴)
～黒部五郎～三俣蓮華～双六 泊(四日、快晴)
～西鎌尾根～槍ヶ岳～槍沢～徳沢 泊(五日、晴れ)
～上高地～扇沢車回収～千葉(六日、晴れ)

GWは憧れのオートルートにチャレンジすることにした。単独・テント泊となり軽量化に苦労する(結局、ザック重量一六

キロ＋無駄に重いファット板だが他に板が無いのでしょうがない・・・)。九連休をとり、好天が望めそうなタイミングでの入山を計画するが週間予報がコロコロ変わりあてにならない。結局、低気圧の抜ける一日に入山。

初日、黒部ダムから見た稜線上は雲の中である。室堂ターミナルを出るとやはり、稜線はガスの中。まぁ、予想していたことであるし、明日以降の好天を期待している長いツアー。さぁ、出発だ。一ノ越までは人も多いが、山荘から御山谷方面に向かう人は少ない。ガスで先が良く見えないので慎重に滑走開始。少し下がると視界が開けたが、背中のザックが重く、あっという間に太ももが苦しくなる。右手の龍王岳の岩場を目印に登り返し地点到着。鬼岳へ登り返すがガスガスでルート判断が微妙なところだ。シールをつけたままの上り下りで慎重に進み、獅子岳のピークからやっと滑降開始。ザラ峠への滑降は視界の利いたなかなかの急斜面で初日の大一番である。再びシールをつけてだだっ広い尾根に出たら慎重に小屋を探す。薄いトレースをたどると、無事に五色ヶ原山荘に到着した。小屋の少し前から小雨となり、本日は山荘泊にする。夜からは大雨と雷に変わり、屋根付きにして正解だった。山荘では管理人が一人とツアー客が二人。管理人さん曰く、今年の大雪はやはり尋常ではないようである。

初日はちょっと視界が効いたのみでルート把握に苦労したが、稜線上でも雪が多くヤブに行く手を阻まれることも無かった。こんな年は珍しいのだろう。

二日、起床時は相変わらず雨が降っていたが、ラジオの天気予報では午後から回復の予想。ゆっくりと朝食を食べ、雨の上がった一〇時に小屋を出発。今日もガスガスで地図とコンパスの計器行動である。平坦な五色ヶ原を抜け、鳶山へ。越中沢岳の下り等ガイドブックでは夏道を下るとあるが、今年は積雪が多く夏道も大部分が雪で覆われている。おかげで、ツボ足でハマったりして結構手こずる。滑られそうな下り斜面があっても視界が利かないのでは一気に滑降と言うわけにもいかない。結局、鞍部までつぼ足で下り、越中沢岳へは適度な斜度のシール登行。ここからの下りは急なやせ尾根でスキーは使えない。担いで再びつぼ足である。この辺がつらいところだ。スゴノ頭からはシールをつけたままの板を履き、地味な滑走。ふたたびシール登行に切り替え、結局、天気が回復しないままスゴ乗越小屋に到着しテント設営。小屋はかなり雪に埋まっていて使えない。日暮れ間近になりやっとガスがきれ延々と連なる山々が見えるようになる。

この区間のポイントは急なやせ尾根でのつぼ足下降で思いがけず時間を取られてしまうことであろう。テント泊の重い装備だと、五色ヶ原～太郎平を目指す場合つらい行程だ。

三日は朝から快晴！この日のメインは薬師岳の下りである。テン場から北薬師まではシール登行可能だが、北薬師～薬師の稜線は細かなアップダウンが多く、露岩も出ているので板を担いで歩くことが多い。バテかけた頃に薬師山頂に着くがさらに一〇分弱は南に歩かないと滑りこめない。時間に余裕があれば薬師岳周辺のカールを滑るのも面白そうだ。特に金作谷のカールは滑降意欲をそそられる。

薬師峠までの滑降はチョー快適、これが山スキーの楽しみ

だ！荷物が重いことも忘れさせてくれる景色の中、程よい雪質に自分好みのリズムでターンを描き、グングンと高度を下げる。あっという間に目指す小屋が近づき、標高差六〇〇mを一〇分で下ってしまう。鞍部でシールに切り替えて、三〇分ほど登り返して太郎平小屋に到着。時間には余裕があったが先に進んでも日程に変わりないので早めのテント設営。なんと自分の三〇分あとに五色から到着した人がいた。天気がいいとやっぱり早い(それともこの人が早い?)。

四日も朝から快晴！目指す双六は黒部五郎のはるか先だ。北ノ俣へは快適なシール登高。有峰ダムが見えるのでもしやと思い携帯の電源を入れると予想通り使用可。やまの会のメーリングリストに順調報告。北ノ俣からは斜滑降で黒五の取り付きに。ピーク手前の肩までは板を担いで直登。ピークを往復したあと通常はやや北側に移動して滑り込むところを、肩から直接カールへの急斜面に飛び込む(小屋泊りの軽量装備なら山頂ダイレクトが出来たはず)。気持ちよいターンをするのもほんのわずかで、黒五の小屋までひたすら斜滑降。ゆっくり休んだらシールを着けて三俣蓮華までひたすら登る。本によると最後は板を担ぐとあるがここも雪が多く山頂までシールで行けた。山頂から鷲羽岳を見ると何やらシュプールの跡が付いているのが見える・・・。かなりの斜度だが、やはり物好きが多いエリアである。新穂高から入って、双六、三俣でキャンプを張りながら一dayツアーを繰り返すのも滑降派にはたまらないだろう。

さて、三俣蓮華の山頂からは稜線コースとトラバースコースがあるが、縦走派の自分としては今回は荷物も重いしトラバースを選択。雪質も安定しており、雪崩も大丈夫そうなことを確認し、双六岳の下まで延々と斜滑降。この周辺も稜線から滑り込んだら面白そうなラインが目白押しである。夏道の分岐付近まで斜滑降できたら、ちょっと登り返すとちょうど小屋裏の急登の上だ。ギャラリーが多く下手な滑りは許されない。テン場まで華麗なターンで滑り込む。小屋泊まりなら少し滑って遊ぶ時間も有るのだが、テント泊ではそうもいかない。地ならし、水作り、食事準備に。その日の反省・明日の行程の確認等々やらなきゃいけないことは多い。ザックを下ろして、設営開始だ。

夜、食事を終えて、明日の行程チェックに取り掛かる。この先のルートとしては予定通り槍沢に抜ける道とテン場からすぐに滑りこんで新穂高に降りる二つがある。新穂高に降りるコースも「ミニオートルート」と呼ばれており疲労のたまった体には非常に魅力的である。実際、八割くらいの気分で楽な方を選ぼうとしていた。曖昧な気持ちのままに就寝する。

五日、やや薄い雲があるが晴れ。晴れてしまったんじゃしょうがない、計画は完成させてこそ美しいと西鎌尾根へ足を向ける。樅沢岳に登ると西鎌の威容が飛び込んでくる。いきなりナイフリッジ、その後もなかなか面白そうな稜線が続いている。とにかく雪が多い！風がほとんどないのが救いである。槍ケ岳までは所々夏道も出ているが、ひたすらアイゼン歩行。グズグズ雪の急な下りやトラバースを慎重にこなして予定通りの時間に千丈沢乗越着。あとは槍までの急登だけだ。これが終われば楽しい下りが待っていると思えども、疲れた体と無

駄に重いファットスキーのせいで槍の肩がなかなか近づかない。お昼過ぎになんとか肩に到着、さぁ槍はどうする?このツアーの場合は登らない人が多く、一般的に槍のピーク抜きでも踏破と認められている。しかし、ルート中の最高峰、オートルートのシンボルと言える槍ヶ岳のピークを踏んでこそ真の計画完遂である。空身で往復すれば疲れも多少とれるだろうと登りにとりかかる。

ここも雪が多く慎重なアイゼン歩行が求められる。記憶によればこのハシゴを登ったところがピークのはずと頭を突き出すと、なんと!北鎌登攀パーティーがいるではないか!お互いに記念撮影をして肩まで降りる。

さぁ、北鎌パーティーに見られながらのエントリー。斜度はいいけど午後二時を過ぎて雪質はべったべた。おまけに三ターン目くらいで石がひっかかり危うくギャラリーの前でバランスを崩しかけるが、そこは持ち前のテクニックで何事も無かったかのように滑りきる。標高差二〇〇m滑ったとこで一時停止。ザックは重い、雪質は悪いで腿はあっという間に悲鳴をあげる。ワックス塗ってもどうにもならず。。。

下れば下るほどグサグサ雪は深みを増し、とてもじゃないがターンにならない。これがフィナーレでいいのか??結局、きれいな雪は槍沢ロッジまで。あとは落ち葉とわけの分からない物の上を無理矢理滑って横尾と徳沢の間までなんとかスキーで下る。横尾着が一七時、もしかしたら上高地まで行けるかと思ったけれど、行動一二時間を越え疲れた体は徳沢で「もうダメ」と訴える。上高地まで行ってもその先帰れないのだからしょうがないけど、なんだか中途半端な気分で最後の夜を過ごす。

六日も四時に起床し朝イチのバスを目指す。昨日の疲労もとれて一時間ちょいで河童橋着。期待してなかったのだが、なんとこの時間に食堂が開いている。迷わずカツカレーを注文し、久々の「食」に心を潤ませる。オートルートの完全制覇の瞬間です!あとは八時の始発バスから、スキーブーツのまま(笑)電車とバスを乗り継ぎ、一二時に扇沢のマイカーに戻る。いつもの薬師の湯に入り、百年の恋も冷めるような状態からスッキリしたイイ男に戻ってやっと人心地つく。

さて、渋滞のなか帰るか〜、と思ったら意外と渋滞少なく四時間半で千葉到着。

一度はやってみたかったオートルート縦走を完了。クラシックコースであり、縦走主体のロングツアーというのが感想である。今回はテント泊だったが、小屋泊りにすれば、かなりの軽量化が可能であり、中高年でも条件が揃えば上高地まで踏破出来るであろう。しかし、必要な条件はきわめてシビアなものである。先にも述べたが安易な気持ちでは取り付けないコースだ。

さて、次はどこに行こうかな?
自分は何を目指したいんだろう・・・